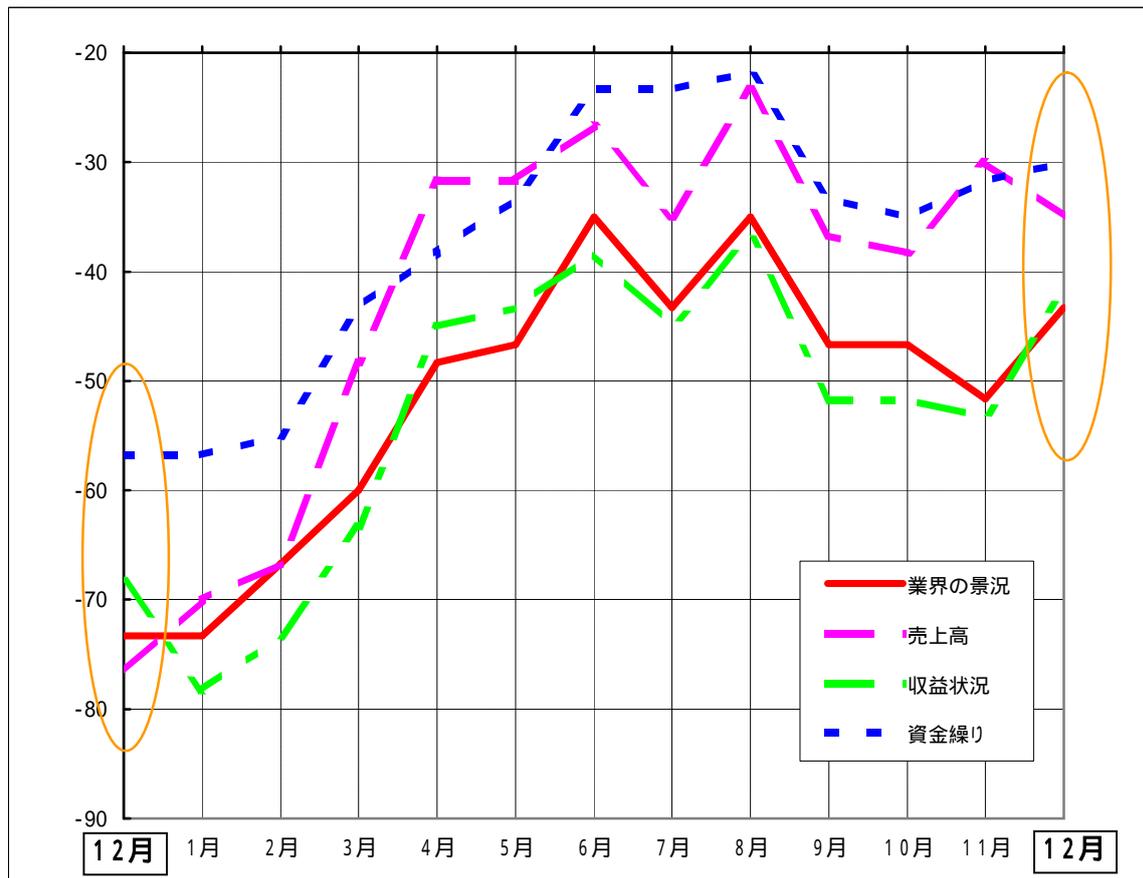


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成21年12月～平成22年12月

単位:ポイント



H21 H22

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
業界の景況	-73.3	-73.3	-66.7	-60.0	-48.3	-46.7	-35.0	-43.3	-35.0	-46.7	-46.7	-51.7	-43.3
売上高	-76.7	-70.0	-66.7	-48.3	-31.7	-31.7	-26.7	-35.0	-23.3	-36.7	-38.3	-30.0	-35.0
収益状況	-68.3	-78.3	-73.3	-63.3	-45.0	-43.3	-38.3	-45.0	-36.7	-51.7	-51.7	-53.3	-41.7
資金繰り	-56.7	-56.7	-55.0	-43.3	-38.3	-33.3	-23.3	-23.3	-21.7	-33.3	-35.0	-31.7	-30.0

12月のDI値は前年同月に比べ、全項目が改善され、これで11ヶ月連続で全項目改善となった。「業界の景況」DI値は30ポイント、「売上高」DI値は41.7ポイント、「収益状況」DI値は26.6ポイント、「資金繰り」DI値は26.7ポイントとそれぞれ改善した。前月比で見ると、「業界の景況」は8.4ポイント、「収益状況」は11.6ポイント、「資金繰り」は1.7ポイント改善したが、「売上高」は5ポイント悪化した。製造業では引き続きコストダウン要請等による価格の下落傾向、非製造業では客数、受注の減少傾向が広まっている。円高の影響もあり、原料・製品ともに価格の変動が見られ、業界全体の先行きや人員過剰感を不安視する声も出ている。

組合の特記事項からは、外衣製造業では2010年の中国縫製工場の不振により、今後は国内縫製工場に受注が増えるのではないかとという声、また、鉄鋼・金属製造業、一般機器製造業では受注量の減少が続いており、人員過剰感があるとの声、生コン製造業、建設業では前年同期比で20%前後の大幅な受注量の減少もあり、先行きを憂慮する声も出ている。